

令和 6 年 8 月 27 日

文部科学省の「高度医療人材養成拠点形成事業」
に採択されました

2024 年 8 月 26 日、文部科学省の「高度医療人材養成拠点形成事業－タイプ A」に、広島大学の「平和科学を基盤とする臨床基礎融合を目指した人材養成イニシアティブ～SPARK Plan for MED～」の提案が採択されました。

同事業には、補助額によりタイプ A(8000 万円)とタイプ B(4000 万円)があり、両タイプに全国の大学から 65 件の応募がありました。タイプ A は 13 件の応募があり、10 件が採択されましたが、中・四国地域で唯一、広島大学が選ばれました。

本学の事業(タイプ A)は、2024 年(令 6)から 2030 年(令 11)までの 6 年間、毎年 8000 万円が補助されます。審査では、評価委員 4 人の評価平均点が 49 点以上の事業を対象とした中、本学の評価は 63.6 点の高評価をいただきました。独創性のある研究を高い水準で継続しようとする姿勢や、多様な教育プログラムの構築計画などが評価されました。

同事業は、医師の働き方改革を進めながら、医学生や医学系大学院生が、大学病院において臨床の実習や研究に参画できる仕組みを整え、教育研究支援者の活用により研究体制を強化して、臨床教育・研究の分野の知識や技能に優れた医師を養成し、日本の医学・医療の発展や研究力強化につなげていくのが目的です。

本学の提案は、創薬から治験(臨床試験)までを一貫して教育するトランスレーショナル教育研究センター(translational education research center。以下「TraERC」)を司令塔として、主に①高度な臨床・研究能力を持つ医師を養成する支援プログラム(SPARK! Plan for MED) ②国内大学唯一のワクチン等医薬品製造拠点 GMP(適正製造規範)設備による GMP 教育研究プログラム ③霞キャンパスに移転する放射線影響研究所と連携した共同臨床研究拠点、の構築－を目指します。

具体的な取り組みとしては、本学のキャリア支援の医学版である SPARK! Plan for MED を通じ、医学部生、大学院生等の研究支援者、及び若手研究者の育成や人材確保することで、教員の研究時間を保持し、医師の働き方改革に繋がります。また、放射線影響研究所とのバイオバンクの共有化や、ゲノム編集技術の活用などによる GMP 施設の利用推進などを通じて、地球規模の臨床研究推進の国際共同臨床研究拠点を構築し、革新的な高度先進医療の実現を目指します。

文部科学省ホームページ

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryou/1387768_00008.htm

【お問い合わせ先】

病院総務グループリーダー 小左古（こさこ）
TEL:082-257-5004

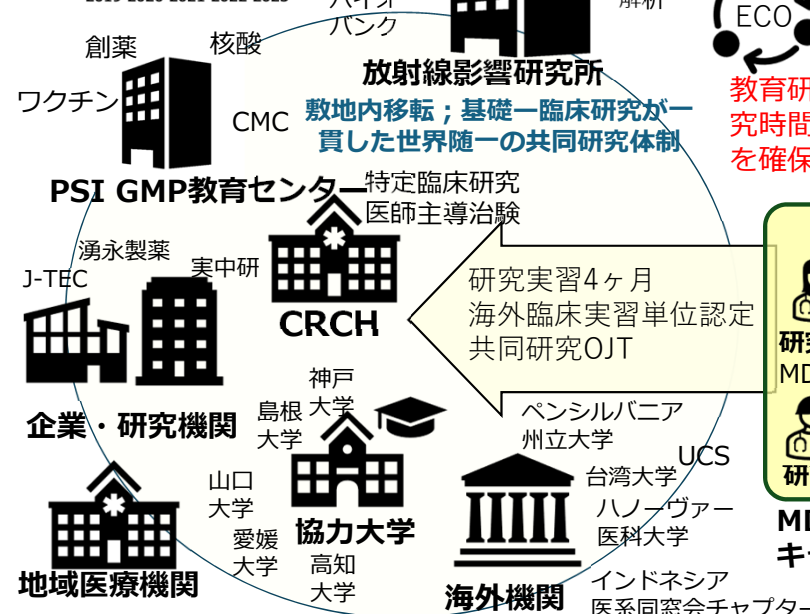
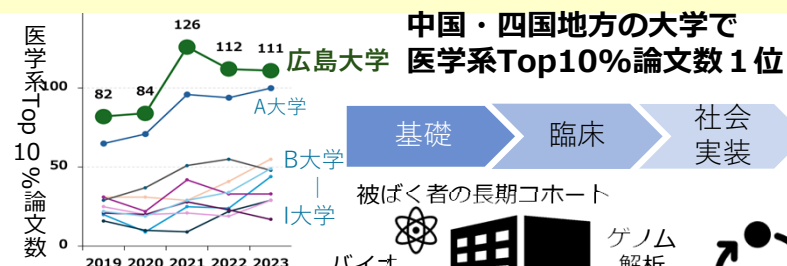


事業名：平和科学を基盤とする臨床基礎融合を目指した人材養成イニシアティブ ～SPARK! Plan for MED～

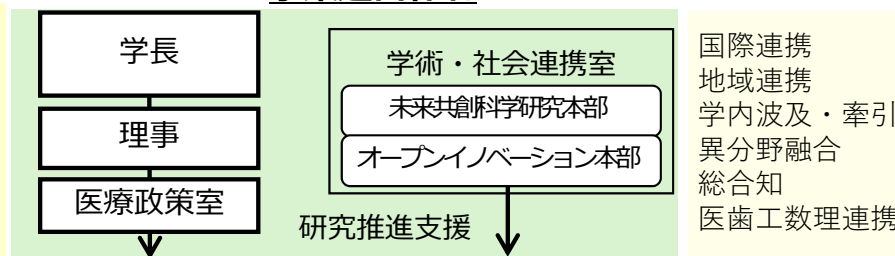
代表校：広島大学

本事業で目指す姿

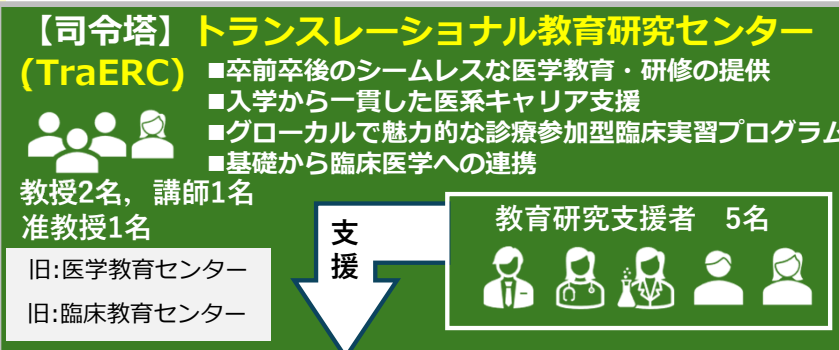
広島大学は新しい平和科学を創生。放射線医学、再生医療、がん等の診療分野とワクチン・医薬品開発において人材養成を強化し、中国・四国地方におけるトップレベルの研究実績を基盤とした基礎と臨床の連携により臨床研究を地球規模でけん引。トランスレーショナル教育研究センターが司令塔となり、医師の働き方改革の中でも、支援者活用による教育研究時間を確保する施策と体制を整備し、人材養成と国際的な教育研究拠点として医学・高度医療の持続的な発展と研究力の強化に貢献。



広島大学 事業運営体制



国際連携
地域連携
学内波及・牽引
異分野融合
総合知
医歯工数理連携



※全国から研究マインドの高い学生が集結（46名実績）

本学独自の人材養成支援プログラム (SPARK! Plan for MED)

Smile: 学生を、アカデミアを、広島大学が「笑顔にする」
Pave: 大学院生・研究者への道を「整備する」
Advice: 大学院・研究者を志す者へ「アドバイスする」
Rally: 広島大学の支援・制度・アイデアを「結集する」
Kindle: 研究に対する興味と情熱を「かき立てる」

Plan for MED

養成する医師の人材像

- 臨床研究マインドが高くかつ高度医療技能を有する医師
- GMP教育研究プログラムによるELSIを始めとするコンプライアンス意識の高い医師
- 本学が提唱する安全、安心を創る新しい平和科学を深く理解し、高度な臨床・研究能力を有し、地球レベルでリードできる医師

「高度医療の持続的な発展に貢献」

- 医師の働き方改革の実現と教育研究時間の確保を両立
- バックキャスト視点にたった質の高い教育プログラムの構築、更に研究力向上を同時並行に達成

アウトプット

- ◆ 診療参加型臨床実習の充実
 - 海外での臨床実習に参加し、単位を習得した学生の数 R6年17名→最終年度25名
- ◆ 研究環境の充実（教育的配慮の下教員の研究活動に参加する学生の増加等）
 - MD-PhD入試枠での医学生（5名定員枠）6年後の目標 平均4.5名
 - 「基礎研究入門コース」選択人数 6年後の目標 10名/年
 - 「アドバンスト研究コース」選択人数 6年後の目標 3名/年（新設）

アウトカム

- ◆ 門田レポートで医学生が実施すべきとされている医行為の経験率の上昇
 - 全ての医学生が経験するもの R4: 6/50項目→R11: 49/50項目（処方を除く）
 - 臨床研究論文数の維持・増加 6年後の目標70本/直近3年（現時点実績 50本/3年）
- ◆ 医学系大学院生の維持・増加
 - MD-PhDコース大学院入学者数 6年後の目標 4.5名/年
 - MD-PhDコースに編入する一般枠医学生数 6年後の目標値 2名/年

社会的インパクト
(達成目標)